ばくち水ノ製造ヲ化學的ニ説明スレバばくち葉ニ含有サレテ居ル「プルナシン」Prunasin $C_{14}H_{17}NO_6$ トイフ配糖體ガ酵素ニヨリ加水分解サレテ「ベンヅアルデヒド」(C_6H_5-CHO)、青酸(HCN)及ビ葡萄糖ノ各一分子ヲ生ジ次デ蒸溜ニヨリ「ベンヅアルデヒド」ト青酸ノミガ溜液ニ移行スル、此ノ溜液ヲ青酸ノ含量〇・一%ニ稀釋シタモノガ日本藥局方ノばくち水デアル、尤モ「ベンヅアルデヒド」ト青酸ハ水溶液中ニ於テ大部分「ベンヅアルデヒドチアンヒドリン」C_6H_5-CH(OH)CN ノ狀態ニ結合シテ含有サレテ居ル

○三種ノ臺灣産防己科植物

藥學博士　落合英二

私ハ大正ガ昭和ニ代ッタ前後、臺灣産防己科植物採集ノタメ渡臺シ、歸リニハ同科植物數種ノ根ヲ持歸ッテ東京目黒ノ陸軍衞生材料廠ニ栽培ヲ依托シタ、同廠溫室係ノ伊藤君ガ非常ナ興味ト熱心トヲ持ッテ育クンデクレタ御蔭デ此夏ハ二種ノ植物ニ花ヲ見ル事ガ出來タ、寫眞ハ主トシテ同廠ノ好意ニヨリ撮ッテ貰ッタモノデアル

●ほうざんつづらふぢ　Cocculus sarmentosus DIELS.

此レハ臺灣中部以南ノ平野ニ普通ノ雜草デ本島名ヲ「鐵牛入石」ト云フ、高雄州潮州郡カピヤン社、クワルス社デハ「チャチョカン」、ライ社デハ「パチヂョン」クナナウ社デハ「タッカン」ト呼ンデヰル、寫眞ハ潮州郡ブンテイ溪ノ近クデ採集シタモノデ九月廿二日撮影シタノデアル、卽チ第一圖ハ外形、第二、第三兩圖ハ雄花ヲ擴大シテ示シタモノデアル

本品ハ內地産あをつづらふぢニヨク似テヰルガ總ジテ葉片細長ク其ノ基部ガ中央葉脈ト銳角ヲナシテヰルノヲ特徵トスルト云フコトデアル

本島人ハ「鐵牛入石」ハ「マラリヤ」ニ用ヰ又之ヲ常用スレバ毒蛇ノ咬傷ヲ受ケタ時害薄シト云ッテヲルガ大

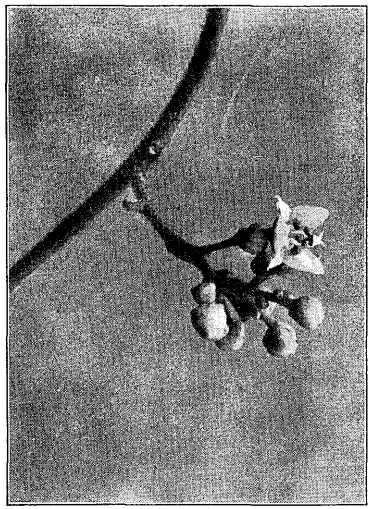
第　一　圖

ほうざんつづらふじ（土名）鐵牛入石 (Cocculus sarmentosus DIELS.)

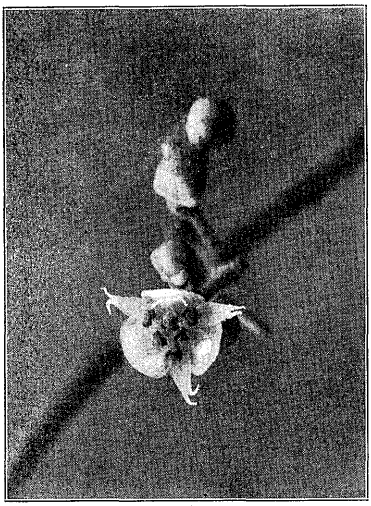
（東京、陸軍衛生材料廠ニ栽植セルモノヲ撮影）

シテ有用ナ藥草トシテハ認メラレテヲラヌラシイ

東京帝國大學藥學科ノ近藤平三郎教授ハ「鐵牛入石」カラ「トリロビン」、「ホモトリロビン」外二種ノ「アルカ



第二圖　同上ノ花
（昭和三年九月二十日撮影）



第三圖　同上ノ花
（昭和三年九月二十二日撮影）

ロイド」ヲ發見研究中デアルガ此中「トリロビン」、「ホモトリロビン」ノ兩者ハ同敎授ガ嘗テあをつゞらふぢノ中ニ發見シタモノデアッテ系統的ニ近緣ナル兩者ガ共通ノ「アルカロイド」ヲ含有シ副「アルカロイド」ヲ異ニスルト云フ興味アル事實ガ始メテ化學的ニ判ッタ次第デアル

しまはすのはかづら（かんばうい）

Stephania tetrandra S. Moore.

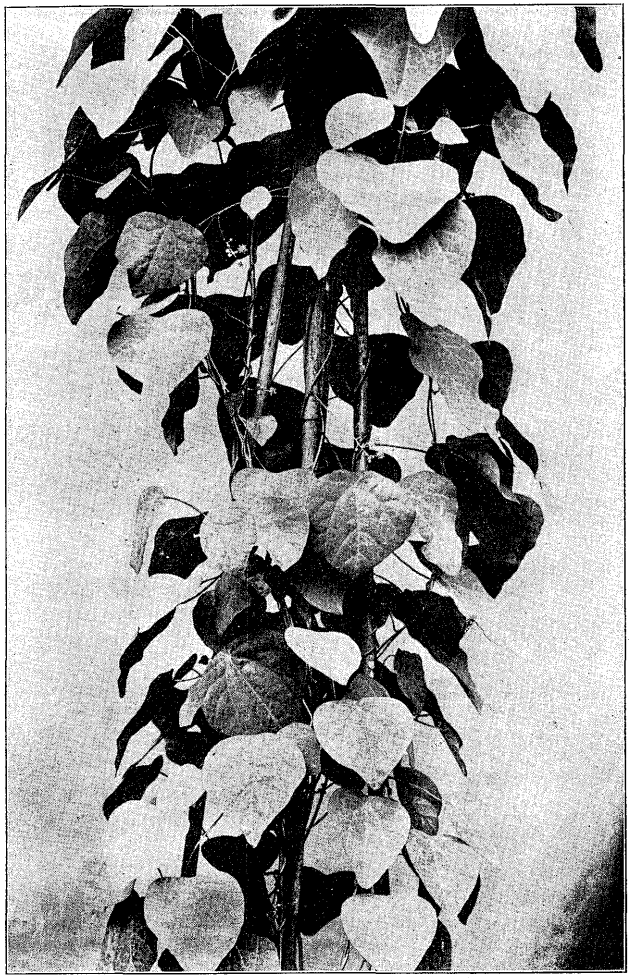
臺灣南部ノ山地寄リノ原野殊ニ高雄州ノ蕃界ニ頗ル多ク繁茂スル雜草デ本島名ヲ「倒地拱」ト云フ、潮州郡カピヤン社、クワルス社デハ「ラバシュ」、ライ社デハ「ジャパシュ」、クナナウ社デハ「ヤバッカ」ト呼ンデヰル、寫眞ハライ社溪ノ近クデ採集八月廿三日撮影シタモノデアル

第四圖ハ外形、第五圖ハ花（雄花）ヲ中心トシテホゞ實大ニ撮リシモノ、第六、第七圖ハ花序、第八圖ハ根ノ外形ヲ示シタモノデアル

本種ハ內地產ノはすのはかづらニ似テヰルガ花序ガ繖形ヲ呈セズシテ凝總狀ヲナス事、葉ノ裏面ニ毛ヲ密生スル事、根ガ薯ヲナサズ表面ザラザラシタ稍細長キ棍棒狀ナル事ニヨッテ容易ニ區別サレル

本島人ハ「倒地拱」ヲ毒蛇咬傷ノ祕藥トシテ珍重シ又腹病ニモ效アリト云フ、山地旅行ニハ必ズ之ヲ携帶スルモノサヘアルトノ事デアル、蕃地デハヨク薯畑ニ繁茂シ蕃人ハ之ヲ有毒ダト忌ミ慊ヒ潔癖ナ彼等ハ「ラバシュ」ノ蔓ノ卷イタ薯ハ食ハヌト云フ程デアル、モシ豚ガ過ッテ食ヘバ死シ黑イ液ガ胃ニ溜ッテヰルト云フガ實見シナイカラ果シテ如何カ保證ノ限リデナイ

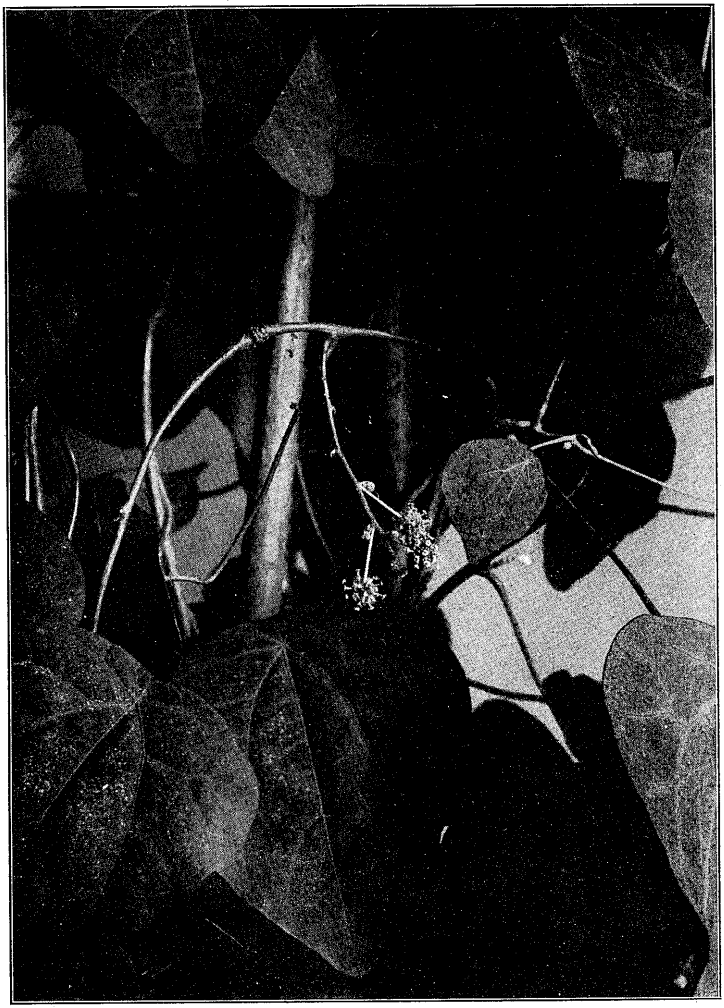
近藤教授ハ根部ニ「テトランドリン」外一種ノ「アルカロイド」ヲ發見シ目下尙ホ追究中デアルガ「テトランド



第　四　圖

拱倒地（名土）いうばんかチ卽らづかはのはしま

(Stephania tetrandra S. Moore.)



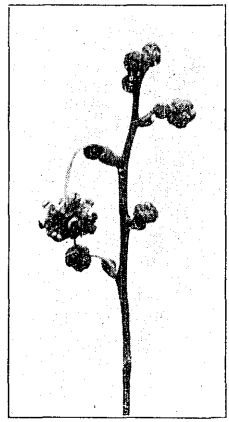
第五圖　上同　(大實形略)

リン」ハ南米產防己科植物 Cissampelos pareira L.ノ根ニアル「ベベーリン」ト化學的ニ近イモノデアルト云フ事ガ判ガッテ來タ

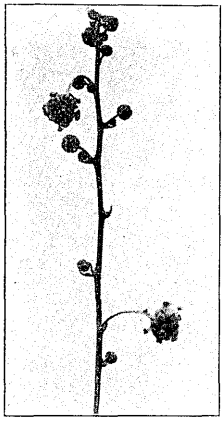
●たまざきつゞらふぢ

Stephania cephalantha Hayata.

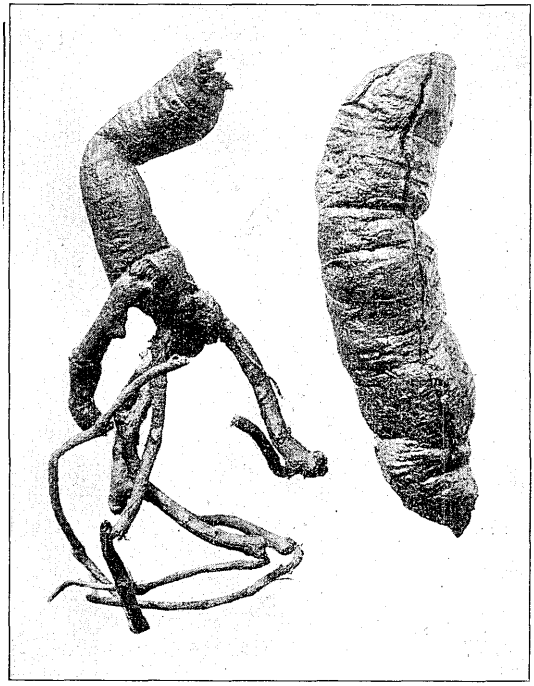
本品ハしまはすのはかづらニ極メテ近イ種類デアル、コレモ臺灣南部蕃界ノ稍〻濕ッタ森林地帶ニ盛ンニ繁茂シテヰルモノデ



第六圖　同上ノ花序



第七圖　同上ノ花序

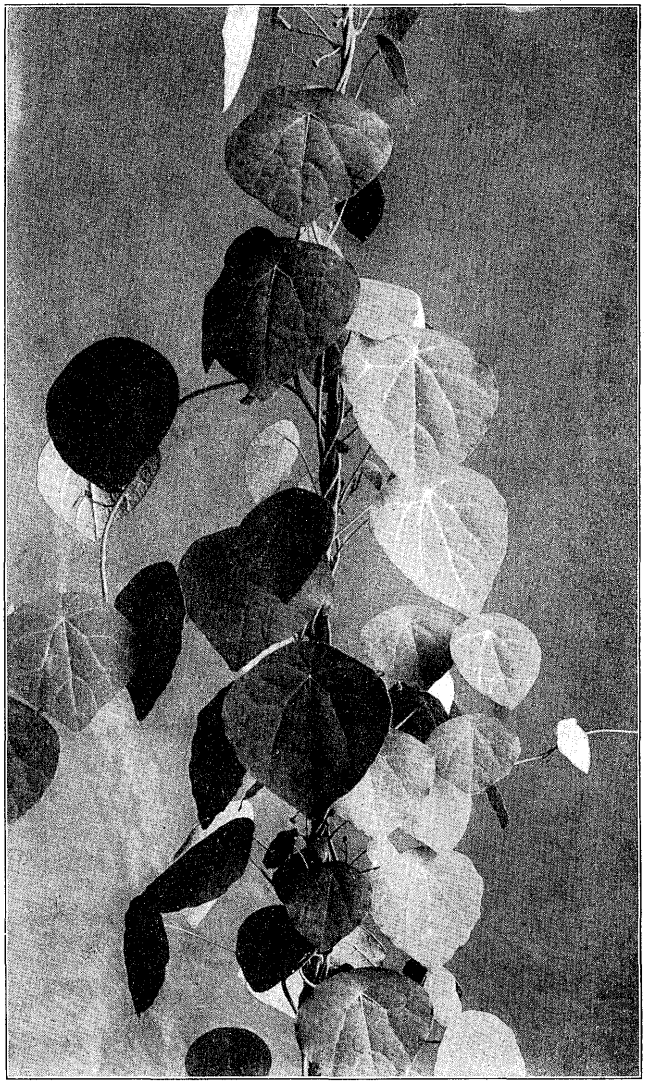


第八圖　同上ノ根

蕃人ガ同樣「ラパシュ」、「ジャパシュ」ト云ヒ前者ト混同シテヰルモノデアル、コレハ葉ノ裏ニ毛ノナイ事ト根ガ薯ノ樣ニスベ〳〵シタ光澤ヲ帶ビタ塊狀(細長クナイ)ヲナス事ニヨッテ區別スル事ガ出來ル、クワルス社デ採ッテ來タモノガ昨年七月雌花ヲ着ケタ

第九圖ハ其全景、第十圖ハ一分ノ一大ノモノ、第十一圖ハ雌花ヲ擴大セルモノヲ示ス

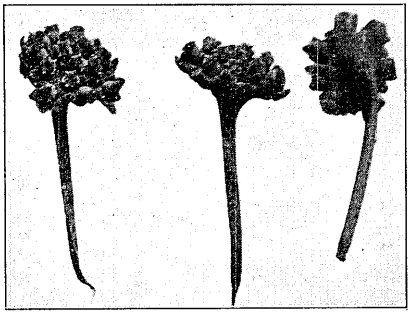
近藤教授ハ其根部カラ「セファランチン」ト名クル「アルカロイド」ヲ發見セラレタガソレガしまはすのは



第十圖
たまざきつづらふぢ (Stephania cepharantha Hayata.)

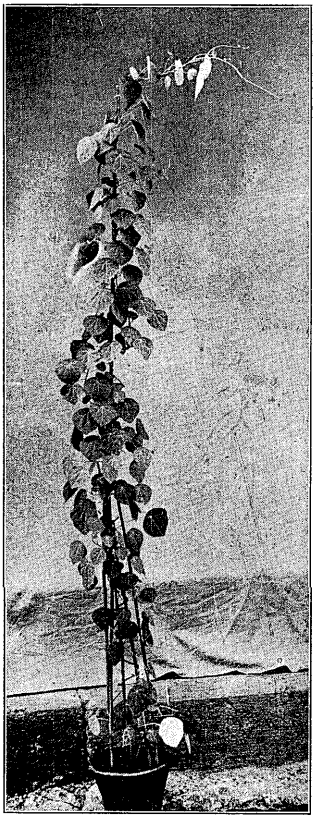
かづらニ含有セラレテ居ル「アルカロイド」ト全ク區別サレル事ガ確實トナッテヰルノデアル

今日コノたまざきつづらふぢノ一種ハ特ニ東京ニ於テモ戸外デ枯死モセズニ無事ニ寒キ冬ヲ經テ越年シ翌春ノ四月ニ再ビ芽ヲ出ス事ガ經驗サレタ、又材料廠ノ伊藤君ハ右ノたまざきつづらふぢヲ挿シ木ニヨッテ自由ニ增殖サス事ニ成功シツヽアル事ヲ終リニ特筆シテオク、



第一十圖
花ノぢふらづつざきたま

此ノヤウニ臺灣ノ植物ガ東京ノヤウナ寒イ處ノ戸外デモ敢テ凍死セズニ無事ニ越冬スルノハ頗ル珍シイ事ト謂ッテモヨカラウ



第九圖
ぢふらづつざきたま
(Stephania cepharantha HAYATA.)

○邦産 Sanicula 屬ニ蓋シ一種ヲ加フ可キ乎

久內清孝

我國産スル所ノうまのみつば屬(Sanicula)ハ從來三四種アル樣デアル卽チうまのみつば、くろばなうまのみつば、ふきやみつば及ビひめうまのみつばデアッテ何レモハッキリトシタ種デ相互混同スル樣ナモノデハナイラシイ

くろばなうまのみつばノ圖トシテハ原色ニ近イ圖ガ伊藤篤太郎博士ノ日本植物圖彙一ノ六輯ニ載ッテ居ルシマタひめうまつのみつばヲ除タ三者ヲ並列シタ明瞭ナ圖ガ中井敎授ノ朝鮮植物ニ出テ居ル、ふきやみつば丈ハ植